

令和4年度 発達心理臨床研究センター主催行事報告

1. はじめに

令和4年度は下記の通り、行事を企画・実施したので、概要とまとめを報告する。

2. 臨床心理学講演会

日時・方法：2023年3月9日（木） 18:30～20:00 Zoomによるオンライン開催

参加者：全119名 [学内参加者：77名、学外参加者42名]

演題：摂食症（摂食障害）の子どもたち～子どもの時から成人までの長い道のり～

講師：高宮 静男 先生（たかみやこころのクリニック 院長）

講師の高宮静男先生は、小児心身症、小児摂食症（摂食障害）をはじめとする子どもの診療に多く携わられており、摂食症（摂食障害）の子どもたちについて、最近の基礎概念から学校との協力体制も含めたチームでのアプローチまで、具体例を交えて御講演いただいた。参加者からは以下のような感想が得られた。

- ・摂食障害の子どもの治療について、連携の大切さを知ることができた。また、回復したと思っても自死の可能性があることや、子どもの場合は特に成長に長期的に影響を与えるため、早期発見の大切さも学ぶことができた。
- ・子どもの支援をすることは子どもたちの将来にも関わってくることで、その子たちの成長がやりがいを感じる瞬間だと思った。また、摂食症の治療は、長期にわたるものも多く、回復をしたからといって安心できないことを学んだ。心理相談でも、終結する際は、「またいつでも頼ってください」ということが多いと思うが、その言葉がとても重要で、早期対応に繋がることを改めて感じ、一言一言の言葉の重み、必要性を感じた。
- ・御講演を通じて、一番に、子どもだけに関わらず「誰かに自分のことをわかってもらうこと」の大切さを学んだ。「子どもを大事に思う心」は、その子どもの背景にまで目を向けて、深く分かろうとすることに通じる姿勢なのではないかと思った。来年度から学校現場に出るものとして、先の「心」と「姿勢」を念頭に置いておきたい。

他にも同様の感想を多く得ることができ、参加者にとって新たな気づきを得られた有意義な時間になったことが窺える。

本年度は新型コロナウイルス感染症対策のためオンラインでの開催となった。来年度も開催時期や方法、テーマを工夫しながら、臨床心理学コースや他コースの大学院生、修了生、あるいは地域の専門家に対する学習の機会を提供していく計画である。

